

～町内のグスク～

およそ十二、三世紀に始まる「グスク時代」の指標となる遺跡は、高い丘の上に防御となる石垣を築いたり、切岸の平場がつくられたもので、一般的に「グスク」と呼ばれています。

グスクは御嶽や貝塚と重なっていたり、多くの遺物(土器や貿易陶磁器など)が出土する場合もあって、その本質については、聖域説・集落説・防御のための城説などがあります。

県内では約二〇〇から三〇〇ほどのグスクがありませんが、西原町内には、**我謝遺跡・津記武多グスク・幸地グスク・棚原グスク・イシグスク**といった五つのグスクが存在します。

津記武多グスクの按司と幸地グスクの按司の争いについての伝説は、この町史だよりも何度か取り上げたことがあります、みなさんをご存じだと思います。



字小波津にある津記武多グスク

棚原グスクは、十六世紀に編集された『おもろこさうし』の中で「棚原のてだ」と讀えうたわれた按司が居城し、君臨していたと考えられています。

また、我謝遺跡からはたくさんの遺物が発掘されています。その中でも、十三～十四世紀ごろの中国製陶磁器が大量に出土しています。それは、先ほど述べた『おもろこさうし』にでてくる「我謝の浦」の港から中国と直接貿易を行っていたであろうと推測されます。

それでも、町内のグスクについてはまだまだ不明な点も多く、これからの調査や整備が必要といえます。この状況をふまえて、十二月三日(日)には、本島中部の**グスク巡り**を計画しています。

グスクに関心のある町民のみなさん、町外のグスクを歩きながら、その歴史にふれることで、町内のグスクについてより理解を深めることができるかもしれませんよ。ぜひ、一緒にグスクを歩いてみませんか？

グスク巡り

【日時】

平成十二年十二月三日(日)
八時半～十七時まで

【場所】

沖繩本島中部のグスク

【連絡先】

☎九四六―九八四六(町史係)